

短期大学保育学科 1 年次学生の「私のめざす保育者」の論考の検討

三橋 功一 小西 美奈 佐藤 愛夢 佐藤 愛莉 佐藤 瑞季 佐藤 桃香

Junior College Students' Conception of 'My Intended Childcare Worker' at the First Year Student

Koichi MITSUHASHI Mina KONISHI Aimu SATO Airi SATO Mizuki SATO Momoka SATO

短期大学保育学科 1 年前期「教職概論 (2 単位)」受講学生の「私のめざす保育者」の論考について検討した。(1) めざす保育者 (モデル) として、「①具体的目標表情 (笑顔、安心)、②恩師憧れ・先達保育モデル、③保育内容機能」の 3 点に、また、(2) めざす保育活動として「①子ども対象 (わくわくする楽しい遊び)、②保護者・家庭 (保護者の子育ての願いとカウンセリングマインド・傾聴)、③保育環境構成 (自然体験・遊び環境構成)」に焦点があてられた。(3) その目標実現の手だてとして学生時には「①子どもと遊び・ふれあい、②理論 (教科書) と体験 (保護者・子ども) の往還、③子どもの発達・適性にあった保育の技、④保育対象」、就職後は、先輩保育者に学ぶことを考えているとの知見を得た。

キーワード：めざす保育者、具体的目標表情、恩師への憧れ、保育内容機能

1. はじめに

保育は、人間の日常的な営みである。保育者は、子ども一人ひとりの心に寄り添いつつ、より広い世界に出会わせていくという役割をもつので、その行為は保育者自身のもつ人間性や経験によるところは大きい¹⁾。保育の中核を担う保育士の専門性は、保育の質に直結する。専門職である保育士は、その職務に携わる中で、保育現場で求められる知識や技能をより深め、更に専門性を高めていくことが求められる²⁾。

坂口ら³⁾は、保育科学生が保育者像をどのように描き、まためざして学んでいるかを、幼児期の記憶と保育・教育実習を通して調査し、以下の知見を報告している。

- ・幼児期の記憶の中に強く残っているのは、保育者のやさしさである。
- ・ごく日常なことばかけや行為の中で保育者の心が伝わりよい印象として残されている。
- ・職場の人間関係、保育者と子どもの関わり的重要性を体感している。
- ・知識偏重の保育を批判し、保育の心を取り戻し、

互いに育ちあう存在として自己研鑽の必要性を再認識している。

・保育者をめざす理由に、子ども好き、やり甲斐、専門が生かせるなどをあげ、自己の成長と自己実現を目指し、さらに経済的自立を働く意義として捉えている。

さらに、坂口ら⁴⁾は、現職保育者の描く望ましい保育者像を調査し、以下の知見を報告している。

- ・保育職の厳しさは、学ぶ姿勢、保育への取り組み、子ども・同僚・保護者との信頼関係、子どもの理解などにある。
- ・新任者は明るく積極的でよく勉強すると評価しながら、一方では職業意識・社会常識の欠如や自己中心的言動が多いなど厳しく批判。
- ・学生に対して、意欲的实践態度と保育姿勢に謙虚さや柔軟性を求め、また基本的生活習慣の自立と、児童観と職業意識の確立を期待。
- ・学校側への要望は、即戦力という考えが前面に出ているが、主任級では保育者の資質の向上への対応をあげている。

さらに保育学生（保育専修学校）における理想の保育者像は、「やさしい、明るい、笑顔で接する」でありまた、理想の幼稚園教諭では「やさしい、笑顔で接する、子どもの気持ちの理解、歌やピアノが上手」であり、「やさしい・笑顔で接する」が共通しており具体的であることが特徴である⁵⁾。

このように保育者の専門性を学び（保育者への学び）専門性を身につけるにあたって、「子ども観、発達観、保育観、保育者観等」について、自らへの問いかけがあることがわかる。

A 短期大学では、1年前期に「教職概論」の授業科目を設け、教職・保育職の意義等について学生と検討する授業を行っている。この「教職概論」最終課題として「私のめざす保育者」（約800字）を記述してもらい、最終授業にて検討した。本稿では、この「私のめざす保育者」の構想について検討した。

2. 方法

2.1. データ収集

A 短期大学1年「教職概論」最終授業における課題「私のめざす保育者」（約800字）を作成した（2020年7月）。この「私のめざす保育者」の学生A、B、C、D、Eの論考を分析対象とした。

2.2. 分析方法

大谷⁶⁾⁷⁾⁸⁾の「SCAT (Steps for Coding and Theorization)」による下記手続きを行った。

- 〈0〉論考から分析テキストの生成：学生の記述をセグメント化（分節に分ける）
- 〈1〉テキスト中の注目すべき語句の選択・抽出
- 〈2〉テキスト中の語句の言い換え：グループ全体の文脈を踏まえて他の語句へ言い換える
- 〈3〉前述を説明するようなテキスト外の内容
- 〈4〉そこから浮き上がるテーマ・構成概念

具体的には、「教養ゼミ」にて、ゼミ生（第2著者、第3著者、第4著者、第5著者、第6著者）は、テキストを読み、「〈1〉テキスト中の注目すべき語句の選択・抽出、〈2〉テキスト中の語句の言い換え：グループ全体の文脈を踏まえて他の語句へ言い換える、〈3〉前述を説明するようなテキスト外の内容、〈4〉そこから浮き上がるテーマ・構成概念」の活動を行った。その活動後、第1著者が、整理した。この〈1〉、〈2〉、〈3〉、

〈4〉の手続きにより Table 1、Table 2、Table 3、Table 4、Table 5 が作成された。

3. 結果と考察

「私のめざす保育者」の論考A、論考B、論考C、論考D、論考Eの分析結果を、Table 1、Table 2、Table 3、Table 4、Table 5に示す。テキストは、論考A：9、論考B：6、論考C：6、論考D：6、論考E：8、計35のセグメントに分けられた。

これらをもとに論考A、B、C、D、Eの「私のめざす保育者」の論考についてのストーリーラインを作成した。

3.1. ストーリーライン

論考A

「子どもと意思きり遊びを楽しむ保育」をめざす。

保育者への学びでは「遊び、子どもとのふれあい」を学び、とりわけ「子どもの遊び（わくわくする、屋外・室内、発達・適性）の学び」について、短大内にある「つどいの広場」を活用し、「理論（教科書）と体験（保護者・子どもの姿）往還」を通して、子どもの発達・適性にあった保育の技を学びたい。

保育者になってから「子ども観察や家庭調査」を通して、保護者の子育ての願い/子ども生育環境の理解・把握を学びたい。

在学時の保育者への充実した学びにより、倉橋惣三のような「子どもが楽しい/子ども中心の保育」の提供を実現したい。

論考B

明るくピアノが得意で、全力で子どもと遊び、子どもと同じ目線で感動を共有していた「自分の通園保育園の恩師への憧れ（肯定的キャリアモデル）」であり、自分自身も指導する園児が憧れる恩師のような保育（肯定的使命モデル）をめざしている。

その保育は、「保育の先達（フレーベル）の考えをモデルに、遊びを通して成長できる意図的保育（遊びを養い、育てる）」の考えに基づき「自然と関わり自然体験・遊びの対象・場とすべく園庭に砂場、花壇の花、虫などと遊び自然から学ぶことができるよう環境構成・環境整備」を考えようとしている。

論考 C

「笑顔が絶えず一生懸命、保護者が安心な保育士」をめざす。

具体的には「子どもの観察と笑顔の絶えないモデルの保育活動、子どもが自分のことを大切に考えていると思う接し方の保育」「保護者に代わり怪我や危険に注意を払う保育の責務と信頼」「保護者の子育てをカウンセリングマインドで傾聴できる保育者、安心して預かれる保育者」をめざしたい。

在学中「自分のめざす保育者への学び」を頑張りたい。

論考 D

「笑顔で安心感のある信頼される保育士」をめざす。

具体的には、「保育士の子どもへの視線・まなざし（子どもを観察し気持ちの変化に気づく）」「子どもと楽しく遊ぶ」「子どもは大人の言動をお手本にする/子どもたちへ平等に接する」「家庭とともに子育てするために保護者とコミュニケーション・傾聴（カウンセリングマインド）できる保育士の能力」を考えている。

そのために在学中「育ち盛りの子どもと一日中遊べる体力と責任感」、就職後は、子ども同士のトラブル、保護者とのトラブル等への対応等「先輩保育者から学ぶ（報告・相談）」ことを考えている。

論考 E

「文化伝達の保育者」を目指す。

現在「幼児教育では、早期の識字・言語教育」を行っているところがあるが、知識伝達教育から主体的学びへ変革している。言語は耳と目を通し獲得し、言語は文化を象徴、言語習得で自国を誇りに思うようになる。また、文化・風俗・習慣は時代・地域により変化してきている。風俗・習慣から科学的根拠・考え方へ/適切な言語技術、現代が科学の力で支えられ実証される。

1000年前平安期は、病は物の怪（悪霊）に由来すると考えられ加持祈祷により解決を図ろうとしてきた文化・風俗があった。日本は他国から文化・学問を輸入し発展させてきており、加持祈祷から医療へ文化・風俗を変え、進歩して

きた。それは、日本語を使って適切に伝えることができたからである。

日本の将来を開拓するのは子どもたちであり、素晴らしい文化を受け継ぎ・創造するために、表現豊かな日本語獲得と世界へ発信を視野に外国語の獲得が望まれる。そこで、「文化伝達の保育者」を目指す。

3.2. 論考の整理

このように論考 A、B、C、D、E の「私のめざす保育者」のストーリーラインの構成をみると、各人の論考は「モデル、保育活動、手立て・学び、根拠」に整理できる（Table 6）。

3.2.1. めざす保育者・モデル

① 憧れの恩師の保育モデル

・ 幼児期の記憶<保育者のやさしさ><日常的なことばかけや行為：保育者の心の印象>

保育者の役割の一つとして「憧れを形成するモデル」がある。幼児は日々の園生活の中で、保育者の言動や子どもとの関わりの姿をモデルに多くのことを習得していく。物事の善悪や道徳性、社会性を培う上で、保育者が一つのモデルとして大きな役割を果たし、幼児は保育者の様々な行動や姿に対して、大きな憧れを抱いていくようになり、人的環境としての保育者の影響力は非常に大きい⁹⁾。学生も保育者の保育活動の姿に憧れ、保育者をめざすきっかけとなり、保育者・保育活動のモデルとなっている。

② 具体的目標表情モデル

・ 笑顔が絶えず一生懸命、保護者が安心な保育
・ 子ども中心・楽しい保育

この具体的目標表情モデルは、坂口ら²⁾、清水・豊田⁴⁾の保育学生の理想の保育者像の知見を支持する。保育行為は、人間共通の営みで、保育者に求められる資質が人柄や常識という社会共通の人間の良さにつながり、さらに「子どもへのやさしさ」「包み込むような愛情」という情緒的な「社会共通の人間としての良さ」につながる¹⁾。

③ (文化伝達) 保育内容機能モデル

・ 言語理解・獲得、文化理解による自国を誇り
保育は一人ひとりの子どもに寄り添い、より広い世界へ出合わせていく、それは保育者の人間性や経験に依拠する¹⁾。

保育者のめざす保育への願いとそれを支える教材研究・実践知にもとづく文化理解・人間形成であると思われる。

3.2.2. めざす保育者・保育活動

①子どもに焦点をあてた活動

- ・わくわくする楽しい遊び（屋外・室内、発達・適性）
- ・子どもの観察笑顔の絶えない保育活動
- ・子どもが自分のことを大切に考えていると思う接し方の保育
- ・子どもへの視線・まなざし（観察し気持ちの変化に気づく）
- ・子どもは大人の言動をお手本/平等に接する/子どもが頼れる
- ・遊びを通し成長する意図的保育（遊びを養い、育てる）

子どもへのまなざし・やさしさ・包み込むような愛情を基盤とした「めざす保育者の目標表情」を具現化する活動と、自主的・主体的遊び（活動）による発達の体験を通して成長していく保育活動を想定している。

②家庭・保護者に焦点をあてた活動

- ・保護者に代わり怪我や危険に注意を払う保育の責務と信頼
- ・保護者の子育てを傾聴・カウンセリングマインドで傾聴できる保育
- ・安心して預かれる保育者

保育活動を保護者の子育てを傾聴し、家庭の子育てと保育所の統合的活動と捉え・家庭とともに子育てを行おうとする視点を持っている。さらに、家庭における保護者の子育てを傾聴し、カウンセリングマインドの家庭における子どもの子育てを支援する保育者への視点を考えており、専門職としての成長も視野に入れている。

③保育環境等に焦点をあてた活動

- ・自然と関わり自然体験・遊びの対象（場）
- ・園庭に砂場、花壇の花、虫などと遊び自然から学ぶ環境構成・環境整備
- ・言語理解・獲得→文化伝達
- ・素晴らしい文化を受け継ぎ・創造する保育

子ども一人ひとりの発達を保障していくには、子どもたちが日々の活動・体験していることの発達の意味や意義を検討していくことが必要[……] また、「わかる」「できる」ということが、

体験や現実感覚とは無関係に重視される価値観が支配的になってきていた¹⁰⁾。学生は、体験・現実（自然や言語等）と結びついた保育環境に焦点をあてている。

3.2.3. めざす保育者・保育実現の手だて・学び

①短大在学中の保育者への学び

- ・遊び、子どもとのふれあいを学ぶ
- ・つどいの広場の活用
- ・理論（教科書）と体験（保護者・子どもの姿）往還
- ・子どもの発達・適性にあった保育の技
- ・保育の先達（フレーベル）をモデル
- ・保育者への学びを頑張る
- ・子どもと一日中遊べる体力と責任感

専門的知識や基本的生活習慣等の指導力に代表される「知的技術的専門性」と併せて個々に人格をもって生きている人間を相手にする「保育」の遂行には、「眼前の子どもの変化に気づいたり、場面や状況に応じて次の行動を判断したりする感性的専門性」が不可欠である¹²⁾。学生は、保育者への学びとして理論と体験の往還、遊び、つどいの広場の活用を含めて子どもとのふれあいを学ぶことをあげており、保育者の専門性として知的技術的専門性と併せて感性的専門性に焦点をあてていると考えられる。

②就職後の保育者として学び

- ・子ども観察や家庭調査
- ・キャリアモデル（先達・恩師の保育再現）
- ・先輩保育者から学ぶ（報告・相談）

保育職は、生き方の選択であると言われており同僚・先輩保育者、先達・恩師の保育から学ぶことは、「感性的専門性と実践知」等を保育の問題状況への主体的関与等により学ぶことにより保育者としてのアイデンティティーを確立する。これは、保育の問題状況に対して複合的で高度な知見を駆使して展開される実践的な問題の表象と解決を遂行する成熟した実践知（実践的知識・認識・見識・技術）により保障される状況への正統的周辺参加による学びである。保育者の専門的成長は、実践的な問題解決過程で形成される「実践知（実践的知識・認識・見識・技術）」の発達とも考えられる。

いつの時代も社会は変化の中にあり、教育・

保育は、その社会において次の時代・社会を創り担うものを育てる。子どもたちをどのように育てていくのか、保育における体験・学びの発達の意味・意義を検討することが求められ不可欠な状況である。

浜口¹¹⁾は、1990年代以降、保育者の専門性向上のニーズ・重要性が認識されるようになり、現職者になってからも研修や省察を続ける生涯発達の一般化し、[……]「保育者」を養成対象として客観的に論じる時代から、徐々に、学生が自発的に学ぶ人となる養成、さらには、現職者となった保育者自身が自ら学び続けるという生涯学習的学習観が定着しつつある、と述べている。「保育のねらい、それを担う保育者」について、保育者をめざし学ぶ学生と改めて検討する必要があると考えられる。

4. まとめ

短期大学保育学科1年前期「教職概論(2単位)」受講学生の「私のめざす保育者」の論考について検討した。

(1) めざす保育者(モデル)として、「①具体的目標表情(笑顔、安心)、②恩師憧れ・先達保育モデル、③保育内容機能」の3点に、また、(2) めざす保育活動として「①子ども対象(わくわくする楽しい遊び)、②保護者・家庭(保護者の子育ての願いとカウンセリングマインド・傾聴)、③保育環境構成(自然体験・遊び環境構成)」に焦点があてられた。

(3) その目標実現の手だてとして学生時には「①子どもと遊び・ふれあい、②理論(教科書)と体験(保護者・子ども)の往還、③子どもの発達・適性にあった保育の技、④保育対象」、就職後は、先輩保育者に学ぶことを考えているとの知見を得た。

付記: 1年次授業「教職概論」にて「めざす保育者」の論考を作成・検討した。本稿は、その論考をさらに「教養ゼミ」にて再検討したことに基づいている。

参考文献

- 1) 神永美津子、専門職としての保育者、保育学研究、2015、53(1)、94-103
- 2) 厚生労働省、改定保育所保育指針、2018
- 3) 坂口りつ子、北村祥子、豊永家壽子、保育科学生と保母の描く保育者像(第1報) - 保育科学生の立場から -、日本家庭科教育学会誌、1985、28(1)、45-50
- 4) 坂口りつ子、北村祥子、豊永家壽子、保育科学生と保母の描く保育者像(第2報) - 保母の立場から -、日本家庭科教育学会誌、1985、28(2)、53-58
- 5) 清水益治、豊田弘司、保育学生における理想の保育者像(ポスターセッション I)、日本保育学会大会研究論文集、1996、49、860-861
- 6) 大谷尚、4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案 - 着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き -、名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)、2008、54(2)、27-44
- 7) 大谷尚、質的研究とは何か - 教育テクノロジー研究のいっそうの拡張をめざして、教育システム情報学会誌、2008、25(3)、340-354.
- 8) 大谷尚、SCAT: Steps for Coding and Theorization、感性工学、2011、10、155-160
- 9) 文部科学省、教師の役割、文部科学省 幼稚園教育要領解説、フレーベル館、2008、214-215.
- 10) 森上史朗、カンファレンスによって保育を開く、発達17、1996、68、1-4
- 11) 浜口順子、平成期幼稚園教育要領と保育者の専門性、教育学研究、2014、81(4)、66-77
- 12) 関口はつ江、保育者の専門性と保育者養成、保育学研究、2001、39(1)、8-11

Table 3. 短期大学保育学科1年次学生Cの「私のめざす保育者」の論考

番号	テキスト	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の言い換え	<3> 左を説明するようなテクニカルな概念	<4> テーマ・構成要素(前後や全体の文脈を考慮)
1	私になりたい保育士は、笑顔が絶えず何にも一生懸命接し保護者が安心して子どもを預けることができるようになります。	保育士/笑顔/一生懸命/安心して預けられる	保育士の保育の姿勢	笑顔で一生懸命・安心信頼される保育士	笑顔で一生懸命・安心な保育士
2	いつも笑顔の絶えない保育士だったら、子どもはほろろん、保護者も安心できると思っています。子供たちは大人の表情をよく見ていますので、子どもたちとつとめてお話しする時間も、自分なりの保育士になるようにしたいです。	笑顔の絶えない保育士/子どももお手本	子どもの憧れ・モデル	子どもの観察と笑顔の絶えないモデルの保育活動	子どもの観察と笑顔の絶えないモデルの保育活動
3	保育士は、子供を叱る時も、褒める時も、褒めることが大事だと思ったりします。子どもは、大人が思っている以上に大人の様子を察知し感じています。子どもは大人が思っている以上に大人の様子を察知し感じています。子どもは大人が思っている以上に大人の様子を察知し感じています。	子どもは大人が思っている以上に大人の様子を察知し感じています	保育における子どもへの対応・接し方	保育における子どもへの対応・接し方	子どもが自分のことと子どもを大切に考えると思う接し方の保育
4	保育園では、保護者に代わって保育をします。保護者は、子どもが怪我や危険にあわないように細かい所まで注意を払い、毎日安心、安全に過ごさせたいと思います。保護者は、信頼感をもつなっていくと思います。	保護者に代わって保育/怪我や危険に注意を払う/毎日安心・安全に保護者の元へ返す/安心感	保育運営の安全/責務	安心・安全の保育の責務/信頼される保育	保護者に代わり怪我や危険に注意を払う保育の責務と信頼
5	保育園と家庭の子どもの抱えきれない思いを、保育士が話してあげてほしいです。子どもは、保護者が育児について何か悩みや不安を感じているときに、保育士が話を聞いてあげてほしいです。子どもは、保護者が話を聞いてあげてほしいです。子どもは、保護者が話を聞いてあげてほしいです。	保育園と家庭の子どもの抱えきれない思いを/話を聞いてほしい/安心感	保育園と家庭の子どもの抱えきれない思いを/話を聞いてほしい/安心感	保護者の子育てを傾聴・カウズでできる保育士の能力	保護者の子育てを傾聴して預けられる保育者
6	保育士として働こうと思えば、子どもが好きなように過ごせるようにしたいです。保育士として働こうと思えば、子どもが好きなように過ごせるようにしたいです。保育士として働こうと思えば、子どもが好きなように過ごせるようにしたいです。	子どもが好きなように過ごせるようにしたい	めざす保育士への学び	保育士への学び	自分のめざす保育者への学びを頑張る

Table 6. 私のめざす保育者の論考の枠組み

	論考A	論考B	論考C	論考D	論考E
モデル めざす 保育者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的目標表情 ・ 子どもと思いきり遊びを楽しむ保育 ・ 倉橋惣三の子ども中心の保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恩師憧れ ・ 自分の通園保育園の恩師への憧れ ・ 指導する園児が憧れる恩師の保育（肯定的使命モデル） ・ 遊びを通して成長する意図的保育（遊びを養い、育てる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的目標表情 ・ 笑顔が絶えず一生懸命、保護者が安心な保育 ・ 子どもにとってお手本 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的目標表情 ・ 笑顔で安心感のある保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育内容機能 ・ 文化伝達の保育
保育活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの遊び（おくわくする、屋外・室内、発達・適性）の学び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と関わり自然体験・遊びの対象に砂場、花壇の花、虫などと遊び自然から学ぶ環境構成・環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもへの視線・まなざし（観察し気持ちの変化に気づく） ・ 子どもと楽しく遊ぶ ・ 子どもと大人の言動をお手本/平等に接する/子どもが頼れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもへもにもに子育て ・ 家庭者とコミュニケーション/傾聴・カウセンセラピー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉理解・獲得→文化伝達 ・ 将来開拓は子どもたち創造する保育
手だて ・ 学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊び、子どもとのふれあいを学ぶ ・ つとよいの広場の活用 ・ 理論（教科書）と体験（保護者・子ども）の往還 ・ 子どもも発達・適性にあった保育の技 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の先達（フレール）をモデル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に代わり怪我や危険に注意を払う保育の責務と信頼 ・ 保護者の子育てをカウンセラー/メンターで傾聴できる保育者 ・ 安心 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育ち盛りの子どもと一日中遊べる体力と責任感 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語は文化を象徴、言語習得で自国を誇り文化を受け継ぎ、 ・ 風俗・習慣から科学的考え方を
根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の学び（子ども観察や家庭調査） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアモデル（先達・恩師の保育再現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先輩保育者から学ぶ（報告・相談） ・ 子ども同士・保護者とのトラブルの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期の識字・言語教育 ・ 知識伝達から主体的学びへ変革 ・ 言語は耳と目を通して獲得し、言語は文化を象徴、言語習得で自国を誇りに ・ 文化により風俗・習慣は時代・地域・風俗・習慣から科学的考え方を 	